

IAATO ゾウアザラシの観察に関するガイドライン



IAATOの運航エリアでは、人間とゾウアザラシが遭遇する可能性があります。ゾウアザラシは穏やかでゆったりした様子に見えますが、実際は非常にすばやく、人間が近づきすぎると身構えたり攻撃的になったりする場合があります。

訪問者は、常に安全な距離からこれらの動物を観察し、このガイドラインを守ることが重要です。

繁殖期(10月～12月)に訪問する人は特に注意する必要があります。この時期、オスはハーレムを作るために互いに激しく争い、近づきすぎた人間に対しても攻撃的になることがあります。また、メスは生まれたばかりの子どもを守っていることがあります。特に、母親と子どもの間に割り込んだ場合、ほとんど警告なしで反応や攻撃を受ける可能性があります。

メスが海に戻り、子どもが離乳すると、子ども(離乳期)は人間に強い関心を持つようになることがあります。離乳期の子どもが近づいてきたら、警戒しつつ、ゆっくりと離れてください。

アザラシの行動について理解する

陸に上がったゾウアザラシは、人間の存在を意識しています。音や匂い、動きに反応します。

アザラシやアシカが動揺していることを示す行動を把握しておきましょう。このような行動だけに限定されません。

- 注意や警戒のレベルが高まり、頭部をキョロキョロと動かしたり、首を伸ばしたりする
- 横たわっている状態から直立の姿勢に変わる
- 近づいてくる人から急いで離れる
- 口を開けて威嚇する
- 攻撃的に威嚇する、またはあなたの方へ突進してくる
- ゾウアザラシの子ども(離乳期)や若いゾウアザラシは人間に強い興味を示すことがあるため、注意と警戒を怠らないでください。
- ハーレムから離れたオスのゾウアザラシは、攻撃的で予測不可能な行動を取ることが多くなります。

陸上のアザラシを観察する際のガイドライン

- アザラシを観察するときは、取り囲んだり割り込んだりしてはいけません。特にハーレムや母親と子どもには注意してください。
- ハーレムに動揺を与えるような行動は決してしないでください。
- 海岸では、アザラシと海の間に入らないようにしてください。
- アザラシの近くではゆっくり歩き、走らないでください。
- 推奨される最短距離：
 - 上陸したゾウアザラシからの距離：5メートル(16フィート)
 - 争っているオスのゾウアザラシからの距離：25メートル(75フィート)
 - 動揺しているように見える場合は、より長い距離が必要な場合があります。
- 常にアザラシのために道を空けてください。
- アクティビティが与える影響が軽微または一過性となるようにします。
- 旗やコーンなどで安全な徒歩ルートを示します。必要に応じてスタッフがルートに沿って見えやすい場所に立ち、必要なときにルートを調整できるよう準備しておく必要があります。
- アザラシが顔を上げる以外の反応をしたときは、避けるようにしてください。
- 一頭または群れで海に向かっていたり、多数のアザラシが急いで海に入っていくときは、ゆっくりと慎重に後ろに下がってください。
- 草地では動物が見えにくいので注意しましょう。
- ゾウアザラシ、特に離乳期の子どもは好奇心が旺盛で、母親がいなくなるとミルクを求めて近づいてくることがあります。一頭または群れでこちらに向かってきたら、ゆっくりと後ろに下がり、接触を避けるようにしてください。
- ゾウアザラシは、毛の生え変わりの時期になると普段より無防備になります。
- 繁殖期の海岸では座らないでください。立ったままで周囲に気を配ってください。
- 繁殖期の海岸では、訪問者とアザラシが不意に遭遇するリスクを最小限に抑えるため、他の人とペアになって歩いてください。写真の撮影は交代で行い、一方は常に周囲に目を配ってください。
- 繁殖期の海岸から離れた場所では、静かに座っていてもかまいませんが、周囲には常に気を配ってください。



ゾウアザラシの近くでの小型ボートの運航

- ゾウアザラシがいる陸地に小型ボートで近づく際は、訪問者とアザラシを守るため、細心の注意を払う必要があります。
 - ゾウアザラシは上陸地点の付近で完全に海に潜ることがあり、攻撃的になる場合があります。
- 上陸する際は、乗客に海岸線から離れるよう指示してください。目印やスタッフを見えやすい場所に配置して、ゾウアザラシの群れから離れるよう訪問者を誘導します。
- 繁殖最盛期の海岸では、多数のアザラシが強固に縄張りを守っているため、上陸できないことがあります。アザラシと訪問者を保護するための代替アクティビティとして、ゾディアック・クルージングがあります。

